

北小野地区

住民主体の持続可能な地域づくり計画の提案

15年後も活気のある地域であり続けるために、今できることを考える



令和7年3月
塩尻市 市民地域部 地域づくり課

2040 年の北小野にも里山風景と歴史文化が受け継がれ、地域の良さがさらに輝き、活気があり続けられるように――。

令和 6 年度、北小野地区振興会及び区長会と、塩尻市地域づくり課が中心となって、北小野地区の地域資源と現状の課題を把握するための調査を行いました。

地域住民が自らの手で一つずつ課題を解決していくことを目指して、本冊子には調査の結果と、令和 7 年度以降の地域づくり実施計画をまとめています。



目次

はじめに――	02
地区の概略――	02
調査手法――	02
統計調査より ― 人口ピラミッドからみる北小野地区の状況――	03
ヒアリング調査より ― 北小野地区の資源と課題――	04
“北小野らしさ”を考える――	06
住民ワークショップ――	07
実施内容の検討――	08
令和 7 年度以降の実施計画の提案――	12
おわりに――	13

はじめに

北小野地区にお住まいの皆さまの誇りである霧訪山を始めとした山々、田畑を満たして作物を育む豊かな水、地域の人々の団結を生み、文化を後世に引き継ぐ御柱祭や例大祭などの神事。この地区を形づくってきた様々なものが、少子高齢化や人口減少、ライフスタイルの変化の影響を受けており、未来への継承を危ぶむ声が出始めています。

塩尻市では、令和 6 年度から地域づくり課に移住定住係が新設されました。それに伴い、地区ごとの資源・課題を移住定住の観点から調査を行い、地域の皆さまへ実施可能な計画として提案する、グランドデザイン策定事業が始まりました。この調査には 1 年という期間を掛け、地区にお住まいの皆さまと同じ視点を持って地区の課題をみつめること、未来の姿を描くことに努めてきました。調査だけで終わらないためにも、小さくとも確実に実施できるような行動計画を盛り込んだ「地域づくり計画」を提案することが、今回の調査の中で最も大切だと考えています。

住民の皆さまに主体となっていただきながらも、行政や地域に根ざす民間企業と共に、より良い地区にする手がかりにお使いください。

一人ひとりが住み続けたいと思える地区であるように、何ができるかを考える機会となれば幸いです。

地区の概略

北側は善知鳥峠を越えて松本盆地、南側は小野地区を経て伊那盆地、東側は東山を越えて諏訪盆地に接する北小野地区は、塩尻市全 10 地区 66 区のうち古町区・宮前区・大出区・上田区・勝弦区と 5 つの区で構成されています。

北小野地区（塩尻市）と小野地区（辰野町）は、かつて一つの村として存在し、歴史的繋がりを持っています。現在、行政区域は異なるものの両地域には両小野地区振興会が存在し、様々な分野での連携を計っています。教育分野では両小野学園という名称で保育園から中学 3 年生までの 12 年間を一貫した教育体制で運営する構想も立ち上がっています。また地域行事や生活圏の共有も見られ、行政区分を超えた協力関係が地域の特色として根付いています。

調査手法

① ヒアリング調査

調査期間 2024 年 7 月～2025 年 2 月

ヒアリング人数 合計 45 名

調査対象 北小野地区住民

ヒアリング対象者は北小野地区振興会・北小野地区区長会・北小野支所より幅広く推薦していただいています。

② ワークショップ

「北小野らしさってなんだろう？
北小野地区の未来を考えるワークショップ」

第一回：令和 7 年 1 月 15 日

参加対象 北小野地区振興会役員

参加人数 11 名

告知方法 北小野支所から北小野地区振興会役員への告知

第二回：令和 7 年 1 月 25 日

参加対象 北小野地区住民

参加人数 30 名

告知方法 1 月初旬にチラシを全戸配布

統計調査より

— 人口ピラミッドからみる北小野地区の状況

指定年の期間における人口増減数・増減率

総人口	1980年(人)	2020年(人)	40年間の増減数(人)	40年間の増減率(%)
北小野	2,505	1,804	● -701	● -28.0
塩尻市全域	57,417	67,241	● +9,824	● +17.1
長野県19市	1,672,685	1,711,703	● +39,018	● +2.3
長野県	2,139,203	2,115,252	● -23,951	● -1.1
全国	117,060,000	126,146,099	● +9,086,099	● +7.8

北小野総人口の推移

塩尻市基準推計人口(令和5年)

1980年から40年間で人口の28%が減少

2020年から20年後は半分の期間でさらに33%減少予想

短期間で急激な人口減少が進んでいる

年	総人口(人)	年少人口(人)	生産年齢人口(人)	老年人口(人)	年少人口割合(%)	生産年齢人口割合(%)	老年人口割合(%)
1980年	2,505	***	***	***	***	***	***
1985年	2,395	***	***	***	***	***	***
1990年	2,410	***	***	***	***	***	***
1995年	2,369	***	***	***	***	***	***
2000年	2,321	***	***	***	***	***	***
2005年	2,152	***	***	***	***	***	***
2010年	1,988	***	***	***	***	***	***
2015年	1,838	***	***	***	***	***	***
2020年	1,804	165	910	729	9.1	50.4	40.4
2025年	1,655	157	786	713	9.5	47.5	43.0
2030年	1,514	148	677	688	9.8	44.7	45.5
2035年	1,362	127	596	639	9.3	43.8	46.9
2040年	1,195	112	506	577	9.4	42.4	● 48.3

未来予測

両小野学園の子ども数(令和6年3月)

	0~1歳	2歳	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小野保育園	7	4	8	4	5						
北小野保育園	2	9	8	10	9						
小学校						17	15	20	14	18	20
合計	9	13	16	14	14	17	15	20	14	18	20

老年人口(65歳以上)が占める割合が48.3%まで増える見込み

人口がこれ以上減り続けると起きること

北小野の良さがどんどん無くなっていく負のスパイラル

- 小学校の複式学級化 ▶ 子育て世代の移住は期待できず、現在いる家族世帯も市街地へ移住を検討
- 空き家の増加 ▶ 管理されなくなった住居等が増え地域は過疎化する
- 田畑の放棄 ▶ 里山の風景が維持できなくなる
- 自治会・消防団等の地域運営が円滑にできなくなる
- 祭り等の地域行事の担い手がいなくなり、文化が衰退する

ヒアリング調査より ― 北小野地区の資源と課題

地域にお住まいの皆さまは北小野という場所で生活を営む中でどのように感じているのか、ヒアリング調査を行いました。

調査対象 北小野地区在住の住民

調査期間 2024年7月～2025年2月

良いところだけではなく課題や危機感、時に不満などの率直なご意見をいただくために、ヒアリング対象の方は1名を基本としお話を伺いました。

質問事項

- ① 北小野地区に住んでいて魅力に感じていること
- ② 地域の課題だと思うこと・不安を感じていること
- ③ 地区の未来について願うこと・感じていること

質問事項①

地域に住んでいて魅力に感じていること

地域資源



自然環境

自然全般の良さ、虫などの虫取りもできる
霧訪山など豊かな山、畑、水がある
のどかで静かなことが気に入っている

交通・生活インフラ

車があれば困らず生活ができている
JRの駅がある
コープ（生協）を利用している
野菜の直売所があり楽しみに買いに行っている
水曜たのめいちなどの新しい活動も出てきている

子育て・教育環境

自然もあり、のびのびと遊べて子育てに適した環境だと思う
地区の人たちが一緒に子育てしてくれる
先生の日もよく行き届いており、アントレプレナー学習などの特徴あるカリキュラムもあって学校環境がよい
子育て中の保護者の交流の場が充実している
子どもの数が少ない分、繋がりが濃い

人の気質・コミュニティの魅力

人の良さ、温かさを感じる
人との繋がりが良いが、必要以上の干渉はなく、程よい距離感
地区での活動の充実
若い世帯が増えてきている
御柱祭や消防の活動、定住促進住宅で関係性をつくることのできた

経済・産業資源

農業を始められる余白がある
近年ワイナリーが増加している
翡翠そばなどの特産品もある
養鶏や畜産の可能性も感じられる

住環境

夏涼しく過ごしやすい（冬は寒い）
定住促進住宅があり、移住して住み始めやすい
土地が安くて家が建てやすい

文化・価値観

陸の孤島になり得る場所で、分断されたら住民たちでなんとかするしかなく、連帯意識が強い
御柱祭や例大祭が地域の歴史文化や人の繋がりを繋ぎ続けている
新しい人や考えを受け入れられる
人任せでない自治・独立精神があり、自分達で頑張ろうという文化がある

質問事項② 地域の課題だと思うこと・不安を感じていること

課題

自然環境

農地山林の荒廃や管理不全の不安
獣害など

コミュニティ

地区への関わりに温度差がある
馴染みにくさを感じることがあった
地域の役や作業の数が多く、大変だと感じる

交通・生活インフラ

生活に必要な施設（スーパー・病院など）の遠さ
公共交通と地域振興バスの接続が悪い
電車やバスの本数が少なく、特に子どもが困る・
送り迎えが多い
車を運転できなくなったら生活が不安

産業・雇用

雇用・産業が少ない（働ける場所がない）
農地はあるが、農業を始めるのは大変で担い手
が不足している
農業法人撤退の不安

子育て・教育環境

子どもの減少
子どもが過ごせる場所が不足している（公園など）
小中通学の不安（国道沿いを歩くのには危険が
多い・家から学校が遠いなど）

住環境

隣家の高齢者宅分も雪かきを手伝っているので
大変
空き家は増えているがすぐに住める家は少ない
古い家（元空き家）は寒い

課題に対して現状行われている取り組み

北小野地区振興会の地域活性化部会では、令和 6 年に地域活性化のためのアンケート調査を行い、8 つの分野で地域の魅力と課題、未来像と実施可能なことを整理しています。

お住まいの皆さまが地区の未来へ危機感を抱き、未来のために魅力はさらに磨きあげ、課題は一つずつ解決していこうという機運が高まっていることがわかります。

8つの分野とは…

住民交流、生涯学習・健康づくり、高齢者等(弱者)への生活支援、子ども支援・子育て支援、安心・安全、地域環境整備、地域産業活性化、その他

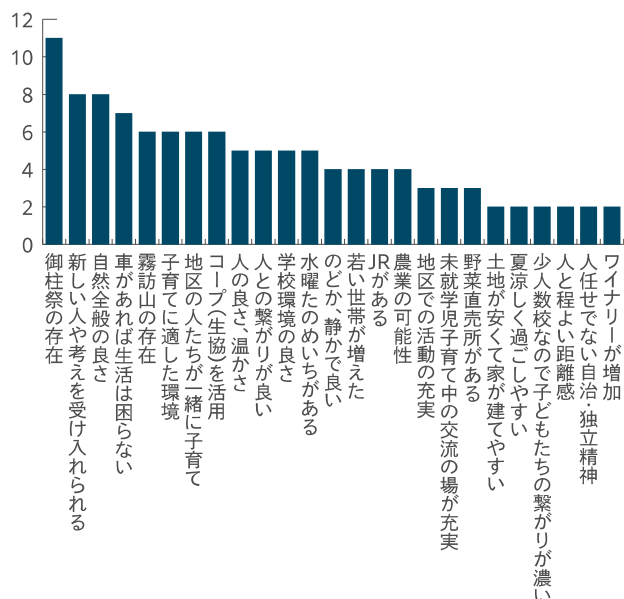


それでは、これら各分野一つ一つの課題を解決したその先の未来に、
どのような北小野地区の光景を見ることができたらいいでしょうか？
北小野の地域性＝“北小野らしさ”をここで一度定義して、
進むべき方向性を一つの共通認識として地域の皆さまと考えてみたいと思います。

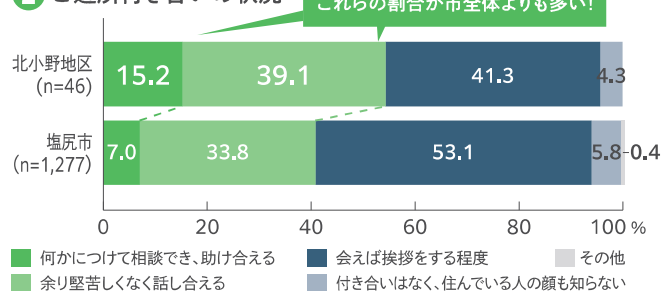
* ここで記述した“未来”とは、将来人口推移で人口予想が出ており、今お住まいの住民の皆さまや私たちがより具体的に想像できる期間として 2040 年（15 年後）と設定します。

“北小野らしさ”を考える

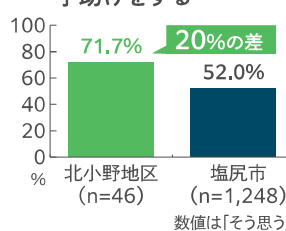
①「北小野の魅力」ヒアリング調査より頻出ワードをグラフ化



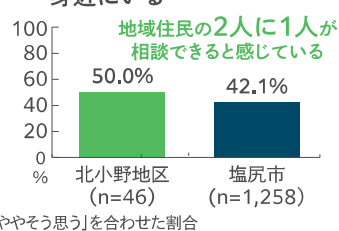
② ご近所付き合いの状況



③ 集落の人が困っていたら手助けをする



④ 困ったときに相談できる人が身近にいる



出典：第四次塩尻市地域福祉計画 P85(令和4年度市民アンケートより)

北小野に住む人々が願う、
15年後の街の様子

里山の風景がきちんと守られている

新しく住む人が増えても、人との温かい繋がりが存在し続けている

子どもたちの元気な声が聞こえる、子育てしやすい地域である

保育園・小学校・中学校が存続している

御柱祭が続き、次世代に引き継がれている

高齢者が元気な地域である

公共交通と地域交通が残ри、移動の不安が減っている

以上の結果より本調査が定義する北小野地区の地域性 = 北小野らしいとは

歴史が育んだ地域の文化と人を大切にする精神

山・水・畑・集落から成る里山の風景

住民ワークショップ

2040 年（15 年後）に北小野らしさを引き継ぎながら、持続可能な地域であるために何ができるのか、北小野地区にお住まいの皆さまに “こんなことができたらいいな” というのを思いつくままに書き出していただくワークショップを開催しました。

分野ごとにより具体的に想像して書き出していただけられるように、現状と課題の整理については、地域活性化部会が過去に行った調査データと本調査で行った 45 名へのヒアリングを元に、12 項目*に整理をしています。

*12項目：人口・移住定住、交通・生活インフラ、住環境・空き家対策、子育て・教育環境、福祉・医療、産業・雇用、自然環境・防災、観光・文化、自治コミュニティ・自治活動、情報発信・広報、財政・行政運営、自然エネルギー

北小野らしさってなんだろう？ 北小野地区の未来を考えるワークショップ 開催時の様子

第一回 令和 7 年 1 月 15 日

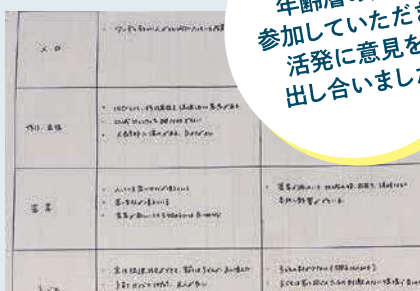


北小野らしさを
皆さまで
再確認して
いきます

第二回 令和 7 年 1 月 25 日



幅広い
年齢層の方に
参加していただき、
活発に意見を
出しました



実施内容の検討

ワークショップで出た様々なご意見のうち、北小野らしさを守るための取り組みで、短期間のうちに具体的に実施を検討できる見込みの項目にオレンジ色・青色で優先順位をつけました。実施には長い時間がかかるものでも、重要なものには緑色の印をつけています。

凡例： ● 2年以内に実施を検討する事項 ● オレンジ色の次に検討する事項 ● 長期的な視点で検討する事項

人口・移住定住				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
人口	● 定住対策部会の推進と地区長会の連携	● 定住促進住宅の拡大建設		● 家を建てられる土地の紹介
移住定住	● ブランディング ● 移住者の現状や傾向を地区内に共有 ● 特徴を外へPR ● 移住者が北小野の話を外でする	● 宿を作る ● 滞在時間をのばす ● 北小野地区の魅力とどういった人へ住んでもらいたいかを明確にしていく		
若者				
子ども子育て世代	● 手ぶらで行ける(集まれる)場所がほしい 支所・公民館のさらなる活用	● 特色ある保育園へ ● 子どもが疾病時に預かってくれるシステムや繋がりがほしい	● 定住促進住宅にいつでも入れるようにしたい ● 小中学校のプールに、目隠しをしてほしい	
高齢者	● 高齢者が利用できる移動販売			
住民の気質・他事項	● 地域ルールや仕組みの説明	● 地域の手引書的なものがあるといいかも		
交通・生活インフラ				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
移動と暮らし	● 若い世代だけではなくいろんな人が利用できるシェアカーや類するものがほしい		● 地域交通とJRの接続改善 どちらも残し続けるには地域住民が"使う"ことが大切 使ってみるための仕掛けを考えてみる	
買い物手段	意見は多く出ていない			
公共交通手段			● JR、バス利用の促進 ● 電車とバス、どちらかでどの時間帯も地域の外に出ることができる	
道路・橋梁の整備			● R153の歩道整備 ● R153のバイパス推進	● 通学、通行の危険性の声多い 歩道整備から少しずつ進めることはできないか可能性を探る
上下水道・電力通信インフラ				
病院・他施設		● オンライン診療 ● 買い物施設→とくし丸の活用		

子育て・教育環境				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
未就学児		支所・公民館のさらなる活用	● 日時限定で未就学児が遊べる場所(支所の和室など)	
保育園 幼稚園 小中学校	● 両小野学園構想について地元の機運を醸成する	● 子ども関係の団体を統合、整理(役を少なくする)	● 国内短期留学、区域外就学の受け入れ ● 課題を協力しながら探求する学習	
教育プログラム 学校環境	● アントプレナー学習との接点を持つ ● 学校運営協議会を地域に開く	人材見える化マップ	● 里山や田畑を活用した教育 ● 特色ある教育の推進(学びたくなる学園)	地域の魅力に触れてもらう人を増やす取り組みが何より大切→そこから移住者(家族)が生まれる
子育て環境	● 人材見える化マップ ● 教育経験者の活用 ● 送迎の支援、子どもたちの預かり	● 全ての子育てニーズに応えられる体制の実現(すきまも含めて)ブランドづくり	● 放課後児童教室の充実(支所内)	
子育て支援制度	● 子育て支援センターの北小野版みたいなことができればいい(日時限定でも)		● 子ども・孫が戻ってくる奨学金支援	
生涯学習 他		支所・公民館のさらなる活用	● 北小野支所の場所の開放 ● 北小野支所の照明を明るく、テーブル等のレイアウト変更 ● 区民のニーズを公民館事業に反映	
福祉・医療				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
高齢者福祉	● 運動会参加、草刈り、各種手伝いについて、サービスの受益者が支払う対価に加えて、何かメリットが発生するように考える ● 高齢者見守りシステムづくり ● 高齢者の灯油入れ、掃除補助など検討 ● 高齢者の防犯ブザー所持(緊急アラーム)	● 地域内シェアライドの実施(ある程度条件を定めて試験的にやってみるか)		
医療機関・介護施設				
障がい者福祉				
健康増進	● 利用可能な施設や場所についてネットで見えるようにしたい			
小さな困りごと、現在ボランティアで成り立っている様々な活動 これらのニーズと手助けを「見える化」して、助け合いが行われやすくなる仕組みを考えたい →相互扶助の関係が色濃く残る地域だからこそできる、新しい形を模索してみたい				
産業・雇用				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
自然	● 霧訪山の開山式R7より実施 ● 住民の作業補助			● 75歳以上の簡単な作業あっせん
農業	● 農地の話を農業・林業部会で定期的に話し合う ● 農地の賃貸の受け入れやすさ ● 定年帰農の推進(元々兼業でやっていた人は可能性があるか) ● 農家無人販売所の企画と支援(個人×区) ● 田畑山を活用して農産物生産と加工	「里山」の風景を守るために 農地・農業の問題は切り離せない	● 農業を始める人への支援の充実(県、市でそれぞれ助成あり。周知の問題か)	
新しい産業		● 観光や地域行事への参加 ● 宿泊施設 ● ゲストハウス	滞在時間をのばす	
企業支援と雇用機会の創出			● 地域でどんな人が何をしているのかを知ることができる →頼ることができるようになる	人材見える化マップ

住環境・空き家対策				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
土地	3-4区画分の土地開発（振興会、定住対策部会、街カンで場所等の検討）		旧市営住宅の跡地への、住宅建設または売買	
建物	- 定住対策部会の組織改革（全区長が組織員になる） - 空き家の状態把握（すぐに直せる家を出す）	- 空き家改修して賃貸で出す法人をつくりたい（出資等で最初の改修費用を賄いたい） - 空き家のデータに使いたい人がアクセスできるようにしたい - 集合住宅の建設、築古アパートの全面改修		【住環境・空き家対策】全体 開発等も視野に入れて（区・三セク・行政）、外から人が入ってきやすくなる状態を目指す 同時に地域の中でも空き家の所有者への声かけを行ったり、空き家改修や貸出等について民間団体が活動できるとより動きは早くなりそう
住環境整備				
他	住宅を店に変えるなど、事業用活用への補助（区や振興会からの補助が現実的か検討）			
自然環境・防災				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
自然環境	- 地区で除雪機を動かす（1台で可） - 冬は仕事の融通が利く人もいるので、区が費用負担できれば実現可	自宅前以外の複数軒分、雪かきをすることが大変という意見が出ている		
森林・農地の整備	- 除草のボランティア整備、若者も巻き込む - 農地を地元で組織した法人に譲渡し、計画的に耕作する		- 松枯れ対策として間伐、樹種変更 - 農業・林業部会と一緒に農地として管理できないところを山に戻すなど、線引きを含めてコーディネートする	深刻な課題である松枯れは、でき得る最大限の手が打たれていて、現状以上にできることはなさそう
災害対策 防災インフラ	問題点もあるが、すぐに取り組まないといけないことは少ない印象		- 消防団員の増加 - 入りやすい人を移住施策で呼び込む - R153バイパス早期実現	呼び込みたい人を明確にすることで、活動したい人が地域に移住するようになる
獣害				
他				
観光・文化				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
地域資源を活かした観光資源		- 霧訪山の麓にちよっと寄れる所＋宿泊 - 古田晁記念館で登山者用休憩所 - トレーラーハウス喫茶etc	霧訪山登山用にJRやバスの充実	
新しい観光振興	歴史めぐり（史談会）		登山や観光客のトイレ問題は支所や民間施設利用を公的にお知らせしたらどうか？	まずは滞在時間を増やし満足度を上げる取り組みを行いたい まずは既存施設のさらなる活用を検討
伝統文化や歴史資源の保存・発信	- 地域外の人でも体験できることをPR - 歴史や文化背景の整理、資料として残す - 御柱祭に、参加しやすくなる仕組みが必要	中期滞在できる家や宿泊場所の整備 次回の御柱祭は2029年		
地域イベントや交流事業の企画				

自治・コミュニティ活動				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
住民の気質 関係性			● 地域外から来る人に事前に説明が必要 ● 地域のことを説明したパンフレット	
地域住民の交流	● 公民館のイベント情報告知をSNSやオープンチャットに			地域の手引書的なものがあるといいか
区	● 山作業の収入について周知 ● 行事の統合が可能か検討(夏祭りとか) ● 区の統合の可能性を探る		● 移住を考えている人への事前告知を行う	
振興会	● 振興会活動への住民参加の促進			
地域課題解決のための住民参加				
地域内の役割	● スケジュールなどを見える化(「例年通り」などと説明不足) ● 役割・仕事の効率化			
情報発信・広報				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
地域の魅力を発信	● 要素を絞った(ターゲット)PR ● HPの作り替え、SNS活用の検討		● 地区のルール等をまとめて移住検討者へ配布する(第三セクターと協働か)	地域の手引書的なものがあるといいか
移住促進のための発信	● どのような媒体で何を発信するのか議論し、実行する ● 先輩移住者が移住相談会へ行行って説明する		● 移住のブランディング どのような人に住んでもらいたいのか?	
デジタル化の活用				
財政・行政運営				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
財政運営				
行政サービスの効率化	● 役の見直し ● 区の統合		● 回覧板の電子化、配布物の削減	
他	● 辰野町小野との合同住民対話の場づくり			
エネルギー・環境対策				
項目	区・振興会	民間企業	行政への投げかけ	第三セクター
再生可能エネルギーの活用				
脱炭素社会への取り組み				
ゴミ処理リサイクル	● 生ゴミの組織的活用			

本年度の調査では目標値は定めておりませんが、今後の実施計画の中で目標値を定めるか検討していきます。

凡例： ● 2年以内に実施を検討する事項 ● オレンジ色の次に検討する事項 ● 長期的な視点で検討する事項

令和 7 年度以降の実施計画の提案

実施内容の検討においてオレンジ色の優先順位をつけたもののうち、令和7年度から検討を行う項目をまとめています。

北小野地区 令和 7 年度～ 8 年度の実施計画

自治運営	●北小野地区振興会部会と外部団体との連携強化(特に空き家／移住定住、農業の分野) ●地域の中にある役割や仕事の効率化が可能かどうか検討
地域の助け合いを守る・促進する	●地域住民の特技が見えるマップの作成 ●地区のお手伝いの見える化、参加特典等の仕組み化 小さな困りごとの解消のためのお手伝いをもっと気軽に依頼できる仕組みづくり ●地区の除雪の状況を把握し、冬に向けて除雪機 1 台の追加稼働が必要か検討（リサーチから） ●地域ライドシェア（乗合の仕組み）について、社協、支所との連携事業を検討
地域のコミュニティづくり	●手ぶらで行ける居場所づくりとして、支所の活用、レイアウト変更、一部企画検討（公民館、支所のさらなる活用） ●区民のニーズを公民館事業に反映、状況把握と改善が何かあれば実施検討（リサーチから） ●地域情報、公民館情報などの地域内部の情報を住民に共有するための新しい方法検討（SNS、オープンチャット、アナログ手段も含め検討）
移住者と地域を繋ぐ	●地区の説明ができるマップ作成（移住相談時に配布／塩尻市他地区でも作る可能性があるのでデザインを揃える） ●北小野地区への移住定住の PR 方針づくり ●移住者や移住検討者へ配布できる地域ルールや仕組みの説明（地域の手引書のような） ※市役所窓口で転入手続きしたら配布できたらよい
移住定住促進	●旧市営住宅跡地の活用を検討 ●家を建てられる土地の紹介 ●3-4 区画の宅地開発の可能性を探る（区ごと） ●空き家調査、定住対策部会との連携・周知
観光	●御柱祭等の PR、歴史背景の保存、参加しやすい仕組みづくり ●登山客・観光客のトイレ不足問題→平日の支所利用、休日の公共・民間施設利用の合意形成と広告

集落支援員制度の活用

集落支援員



湯浅 亜木(ゆあさ あき)
北小野在住(4年目)



赤石 望(あかいし のぞむ)
北小野在住(2年目)

実施計画の実行に関しては、新年度から北小野地区振興会の各部会ごとにご相談しながら進めさせていただく予定です。

この地域づくり計画は、北小野地区の住民の皆さまと本調査チームがそれぞれ少しずつ役割を担い、より良い地域の未来に向けて令和 6 年度に調査を行い、令和 7 年度から実施計画を元に各項目ごとに検討を行い、実施へと着手しようという計画です。

ただ新しい取り組みをたくさん増やしてしまっては、検討・実施において住民の皆さまへの負担が大きくなってしまうことが想定されます。

そのため、北小野地区では新年度から総務省の“集落支援員*”の制度を活用することになりました。

令和 7 年度から 2 名の着任が内定しており、2 名合わせて週 2.5 日の稼働を予定しています。

*地域の維持・活性化に向けた取組みや取組み主体となる地域づくり組織などのサポート

本調査の今後の取り組みと 令和 7 年度調査チームの北小野地区への 関わりについて

本調査は、令和 7 年 3 月 29 日（土）に行う調査結果のご報告をもって今年度の調査は完了となります。調査チームである塩尻市地域づくり課と（株）しおじり街元気カンパニーは、令和 7 年度からは伴走という形に切り替わります。新年度からは地区の皆さんが主体となり、実施計画に沿った活動を予定しておりますが、実施計画が立案で終わることなく、実施をしながらも進捗状況の確認や“北小野らしいを受け継ぐ地域づくり”という大きな方向性から逸れることなく地域づくりを進めることができるか、定期的に振り返りを行う必要があります。

また、実施に予算を要する場合の予算計上や、各種助成金の申請などの準備が必要なことも想定されるため、全体の進捗状況の確認等を目的に、半年ごとに北小野地区振興会の役員の皆さま、集落支援員 2 名、塩尻市地域づくり課、（株）しおじり街元気カンパニーで会議を行う予定です。

二地域居住のこと

令和 7 年 2 月に長野県から全国初、県内初の事例として、塩尻市の 3 つの地区（大門地区・北小野地区・榎川地区）が二地域居住（特定居住）を推進する重点地区に指定されました。塩尻市では現在「塩尻市特定居住促進計画」の策定が進んでおりますので、今後、実施計画に沿った活動との連携の可能性を探っていきます。

おわりに

北小野地区にお住まいの皆さま、この度は調査へご協力いただき誠にありがとうございました。

霧訪山や田畑を潤す豊かな水、祭り等の歴史文化を通じて育まれる絆。この地域の誇るべき風景や文化を次の世代へと繋いでいくためにできることを、地域にお住まいの皆さまと一緒に考え、実行計画まで作成することができました。新年度からは引き続き様々な場でお話を伺いながら、一つずつ取り組みを積み重ねていければと思います。

この冊子の内容や地域づくりに関するご意見・ご要望は北小野支所へお寄せください。



調査チーム

塩尻市 市民地域部 地域づくり課
北小野支所
株式会社しおじり街元気カンパニー